

ハチ博士の ミツバチコラム

10



京都大学大学院
環境学部長
坂本文夫教授

レンゲは どこへ行ったの？

私達が子どもの頃には田畑や野原にレンゲのピンクのじゅうたんが広がり、沢山のミツバチが飛んでいました。レンゲ蜜は薄い色で香りが良く、日本人に最も人気のある蜂蜜の一つです。しかし、最近レンゲ畑を見たことがありませんか？色々な花が咲き乱れる、私が勤務する京都学園大学がある亀岡でも、最近はまだ見かけません。

レンゲの根には窒素固定をする共生細菌（根粒菌）がい

て、田畑の「緑肥」として大切に育てられていました。しかし、近年では化成肥料が普及したために肥料としての重要性が低下し、田植えの時期が早まったためにレンゲの開花を待たずに耕されています。さらに、アルファルファタコゾウムシという外来の害虫が蔓延して、レンゲの芽や花を食い荒らしているのです。このような理由で、今や国内ではレンゲ蜜の生産が難しくなっています。日本の養蜂業が衰退し、外国産の蜂蜜が大量に輸入されている背景にはこのような問題もあるの

です。

この書虫は化学農薬で防除できるのですが、花が農薬で汚染されるのは困ります。そこで、ヨーロッパトビチビアメバチなどの天敵の利用が検討されて、効果も出ています。しかし、まだ全国的に普及するには至っていません。一日も早く、この書虫が駆除されて、ピンクのじゅうたんとして飛び回るミツバチ達を見たいものです。



イラスト おおくぼひとみさん